

<出演団体紹介>

- ・大阪フィルハーモニー交響楽団 (<http://www.osaka-phil.com/>)

1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で生まれた。創立から2001年までの55年間朝比奈隆が音楽総監督・常任指揮者を務め、大阪フィルは個性と魅力溢れるオーケストラとして親しまれてきた。2003年4月から2012年3月までは、大植英次が音楽監督を務めた。定期演奏会を年10回(各回2公演)フェスティバルホールにて開催するほか、平日昼の演奏会「マチネ・シンフォニー」、大阪御堂筋沿いの店舗やショールームにて1週間にわたりさまざまな演奏会を行う音楽イベント「大阪クラシック」など幅広い活動を行っている。2014年4月より井上道義が新たに首席指揮者に就任。

- ・関西フィルハーモニー管弦楽団 (<http://www.kansaiphil.jp/>)

1970年発足。2003年、特定非営利活動法人(NPO法人)化。世界的なヴァイオリニストでもあるオーギュスタン・デュメイが2011年1月より楽団史上初の音楽監督に就任。藤岡幸夫は2007年4月より首席指揮者に就任。飯守泰次郎は2011年1月より桂冠名誉指揮者に就任した。常に新たな事に挑戦する個性派オーケストラとしてますます好評を博している。平成22年度大阪文化祭賞奨励賞を受賞。

- ・大阪交響楽団 (<http://sym.jp>)

1980年創立。永久名誉楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を!』をモットーに提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。音楽監督・首席指揮者 児玉宏、常任指揮者 寺岡清高。知られざる名曲に光をあてるディスカヴァリー・クラシックシリーズなど、斬新で意欲的なプログラムは大きな注目を集めている。

- ・日本センチュリー交響楽団 (<http://www.century-orchestra.jp/>)

～あなたの夢、音にのせて～

日本センチュリー交響楽団(旧大阪センチュリー交響楽団)は、1989年に活動を開始し、初代常任指揮者ウリエル・セガル(現名誉指揮者)の指揮により第1回定期演奏会を行った。2011年4月に名称を日本センチュリー交響楽団に変更し、小泉和裕音楽監督、沼尻竜典首席客演指揮者のもと新たなスタートを切った。2014年4月から飯森範親が首席指揮者、アラン・ブリバエフが首席客演指揮者として就任。

- ・Osaka Shion Wind Orchestra (<http://shion.jp/>)

1923年(大正12年)に誕生以来『しおん』の愛称で親しまれている交響吹奏楽団。クラシックからポピュラーまで誰もが楽しめるコンサートを展開し、各都市での演奏会や吹奏楽講習会、CD録音など、幅広い活動を通して音楽文化の向上と発展のために力を注いでいる。これまでに3度の大阪文化祭賞、日本民間放送連盟賞、日本吹奏楽アカデミー賞演奏部門賞、大阪芸術賞を受賞。2014年4月より宮川彬良が音楽監督、秋山和慶が芸術顧問に就任。2015年3月、大阪市音楽団から改称。

- ・大植 英次(「大阪クラシック」プロデュース)

大阪フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー名誉指

揮者。桐朋学園で齋藤秀雄に師事。1978年、小澤征爾の招きによりアメリカ・タングルウッド・ミュージック・センターに学び、同年ニューイングランド音楽院指揮科に入学。タングルウッド音楽祭でレナード・バーンスタインと出会い、以後世界各地の公演に同行、助手を務めた。

これまでにバッファロー・フィル準指揮者、エリー・フィル音楽監督、ミネソタ管音楽監督、ハノーファー北ドイツ放送フィル首席指揮者、バルセロナ響音楽監督、大阪フィル音楽監督を務め、2000年よりハノーファー音楽大学の終身正教授も務めている。2005年『トリスタンとイゾルテ』で日本人指揮者として初めてバイロイト音楽祭で指揮し、世界の注目を集めた。

レコーディングは、米国リファレンス・レコードより、ミネソタ管との12枚のCDがリリースされ、1996年「ストラヴィンスキー：『火の鳥』」と97年「展覧会の絵」が2年連続でグラミー賞ノミネート、2004年にはミネソタ在住の作曲家アージェントの作品集「グイーディの館」でグラミー賞を受賞した。さらには、ドイツ・グラモフォンやユニバーサル・ミュージックからもリリースされているほか、大阪フィルとのライヴ録音シリーズ「エイジ オブ エイジ」がフォンテックより定期的にリリースされている。

2006年大阪芸術賞特別賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。2007年大阪市市民表彰受彰。2009年ニーダーザクセン州功労勲章・一等功労十字章受章。